

国内での
活動

世界こども財団の出張授業がスタート!

世界こども財団は今年、全国の学校で出張授業を企画しています。4月から5月にかけて、東京の港区立白金小学校や星槎国際高校小田原学習センター、北海道の帯広学習センター、旭川キャンパスで授業を行いました。



エリトリア授業の様子

授業では、ケセテが作成したパワーポイントを用いて、エリトリアの歴史や文化、言語や食文化について幅広く紹介しました。生徒たちは真剣に授業を聞き、興味深い表情を見せていました。質疑応答の時間には、大人でも難しいと思うような質問が飛び交い、多くの生徒が積極的に手を挙げて質問してくれ、生徒たちの旺盛な好奇心に感動しました。このような貴重な機会をいただけたことに大変感謝しています。

小学校でエリトリア出張授業

5月28日、東京の駐日エリトリア大使館のプログラムの一環として、港区立白金小学校で国際理解教育の出張授業を実施しました。この日は3年生全4クラスの117名が参加し、当財団のエリトリア出身職員ケセテ・ハプテシオン・ベルハネがエリトリアの紹介を行いました。白金小学校はエリトリア大使館の近くにあり、生徒たちは毎日その前を通って通学しています。そのため、国旗が掲げられた大使館ビルを見て、エリトリアを知っている生徒も多くいました。



生徒たちからたくさんの質問がありました

星槎国際高校小田原学習センターでの活動

4月30日に行われた星槎国際高校小田原学習センターの全学年を対象とした特別授業では、世界こども財団も登壇し留学生の活動や、さまざまな支援活動について紹介しました。小田原学習センターに設置されている寄付型自動販売機を通じて、購入されたドリンクがどのように世界のこどもたちの支援に役立っているかも説明しました。

多くの新入生にとっては、「世界こども財団」という名前を初めて聞く機会となり、大変興味を持ってもらえました。



北海道の星槎国際高校帯広学習センターと旭川キャンパスでの活動



5月14日と15日には、北海道の帯広学習センターと旭川キャンパスを訪問しました。3年生約140名を対象とした授業では、当財団の活動紹介に加え、国際支援について生徒たちが話し合うワークショップを実施しました。生徒たちは「ウガンダで野球の支援をしてはどうか。」「Eスポーツ(ゲーム)を通して海外の支援をしては」といったアイデアを積極的に出し合い、楽しく活発な議論が繰り広げられました。普段なかなか訪れることができない遠方の校舎と直接交流する貴重な機会となりました。今後もオンラインも活用し、さらに多くの校舎と交流を深めていきたいと思えます。また、北海道の法人会員や寄付型自動販売機を通してご協力いただいている皆様にも直接お礼を伝えることができ、有意義な訪問となりました。

今後も、私たちの活動を身近に感じていただけるよう、様々な機会を提供していきます。



スポーツテストでクラスメートと共に

昨年、アフリカのマリ共和国から初めての留学生として来日し、星槎国際高校湘南学習センターのバスケットボール専攻に入学したアルマム・サリフ・ドゥンビアさん。順調に学業とスポーツに励み、この春から2年生となりました。勉強の面では、昨年は日本語を中心に英語や科学の授業もアルマムさん専用のプログラムで学びましたが、日本語でのコミュニケーションが上達した今年度は湘南学習センターのゼミ授業にも参加し、ほかの生徒と関わる場面もより多くなっています。5月には星槎国際高校湘南の体育祭に参加し、日本で初めての体育祭を仲間とともに全力で競いました。日本語では新しい教科書での学習を進め、7月には日本語能力検定にも挑戦します!

バスケットボールでは、恵まれた体格を活かして活躍を続けています。4月に行われた神奈川県大会では、



神奈川県大会に出場!



体育祭で綱引きに初挑戦

初の県ベスト4、そして男子バスケットボール専攻としてはじめての関東大会に出場しました。勉強にスポーツに切磋琢磨し、毎日仲間とともに楽しく学校生活を送っています。アルマムさんにとってとても大切な2年生の1年間となります。ぜひ応援をよろしくお願いいたします。

卒業生 新年度の 動向

星槎グループと世界こども財団はこれまで、スポーツ交流を通じ、スポーツの才能があり、かつ学習意欲の高い高校生・大学生の留学を各国から受け入れてきました。これまでに計21名のスポーツ奨学生を受け入れましたが、本年度は卒業生たちがそれぞれの道で活躍するさまざまなニュースが届いています。



鹿児島マラソンで優勝したデジェンさん 大磯キャンパスを訪問

スポーツ奨学生プログラム第一期生として2017年にエリトリアから来日したデジェン・テスファレム・ウェルドウさんは、星槎国際高校湘南と星槎大学アコモデーションコースで学び、陸上競技と勉学に励みました。昨年からは社会人として鹿児島市の有限会社南薩（なんさつ）東京社に就職し、社会人ランナーとして活動を続けています。前号でもお伝えしましたように2024年3月3日、鹿児島マラソンで初マラソン初優勝を飾り、大きな話題となりました。

5月27日には大学卒業以来はじめて、神奈川県大磯町の星槎湘南大磯キャンパスを訪問しました。今回の訪問には勤め先である南薩東京社の方も同



朝の打ち合わせで優勝の報告



行してくださいました。朝の打ち合わせでの職員への挨拶から始まり、星槎国際高校湘南学習センターでは高校生時代お世話になった先生方との再会も果たしました。彼の立派に成長した姿を見た教職員たちにとっても大変嬉しい一日となりました。

デジェンさんがいかに周囲の方々に応援されているかというお話も聞くことができました。社員だけでなく、取引先や地域の方々もデジェンさんに声をかけ、応援してくれているそうです。彼の優しい人柄や、アスリートとしてのひたむきな努力、そして星槎で多くの人と関わり学んだことが、社会人になってもしっかりと活かされていると感じることができました。



ペンジョさん ブータンオリンピック委員会に就職



デジェンさんと同じ時期に星槎大学を卒業したツェリング・ペンジョさんは、卒業後は母国ブータンへ帰国し第19回アジア競技大会に出場しました。多様なバックグラウンドを持つアスリートたちと繋がったアジア大会での経験を通じてペンジョさんは、星槎の3つの約束「人を認める・人を排除しない・仲間を作る」を軸とした、人としてのあり方を考え、共生社会創造を目指す「共感理解教育」の重要性を改めて認識しました。

大会後は陸上競技から少し離れ、ブータンスポーツに貢献するべくキャリアの確立に専念し、この4月からブータンオリンピック委員会(BOC)での就職が決まりました。BOCでは、ブータンのスポーツインフラとサポートシステムの強化を担当しながら専門的なスキルを身につけ、ネットワークを広げています。また6月からは陸上競技にもう一度チャレンジすることも決めました。

ペンジョさんは、「この数ヶ月は陸上競技の領域を超えた厳しい成長と学びの期間でした。将来を見据えて星槎が与えてくれた土台に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも陸上でも仕事でも、星槎の精神を体現し常に社会や周囲の人々に良い影響を与えることを目指しています。」と今後の目標を語ってくれました。



タンディンさん、キンレイさん 2024年アジア選手権に出場

星槎道都大学卒業生のタンディン・ワンチュクさんとキンレイ・ツェリンさんは、母国ブータンで後進の指導にあたりながらブータン代表柔道選手として数々の国際大会に出場しています。4月20日から23日まで開催された2024年アジア選手権ではそれぞれタンディンさんが81kg以下級、キンレイさん66kg以下級に出場し、ブータン国営放送などでその活躍が紹介されブータン柔道界を牽引する存在として注目されています。



ビニラムさん 2024年関東インカレに出場

星槎国際高校湘南卒業生のビニラム・テスファイ・ゼラツィオンさんは、この春武蔵野学院大学の2年生になりました。毎日仲間たちと切磋琢磨しながら陸上トレーニングに励んでいます。5月に開催された第103回関東学生陸上競技対校選手権大会では10,000mに出場しました。

卒業後も努力を続け自身の未来を切り開いていく彼らの活躍を世界こども財団はこれからも応援します。



海外での 支援活動

ウガンダ共和国KOMOREBI小学校 橋の建設が進んでいます!



昨年よりプロジェクトを開始したウガンダ共和国での支援事業。北部オモロ県にあるKOMOREBI小学校で、雨季になると冠水してしまうこどもたちの通学路に「橋」をかけ、またこどもたちの環境整備等の支援に向け長期的に取り組んでいます。皆様のご支援のおかげでクラウドファンディングの目標金額500万円を達成し、いよいよ今年4月末より、通学路での「橋」の建設が開始しました。

現地での工事は雨との戦いですが、建設会社と村のみなさんの協力のおかげで、写真にありますように早々に基礎工事を終え、人が通れるところまで、橋の形ができてきました。

この後、当初はじっくりと時間をかけて、橋の上部や手すりを整備する予定でしたが、現地での雨の影響が予想以上に大きく、橋がしっかりと守られるよう協議の上、工事を前倒しで実施することとなりました。

多くの方に支えられて進んでいるこのプロジェクトがしっかりと実を結び、この橋が「アフリカとアジアの架け橋」=「SEISA Africa Asia Bridge」となってこどもたちの未来へとつながるよう、引き続き取り組んでいきます。



贈呈式で 左：富山市の藤井市長 右：生徒会役員吉田さん

藤井市長に寄付の目録を贈呈してくれたのは、星椋国際富山学習センターの生徒会役員、吉田茉央（まお）さんでした。市の職員の皆様や記者の方々、そして同行した富山キャンパス長の高野愛先生、星富会（親の会）顧問の高橋功さん、世界子ども財団職員も含め多くの人が見守る中、星椋に関わる皆様からの心のこもった募金を、星椋の生徒を代表して吉田さんが贈呈してくれたことは、私たちにとってもとても嬉しく、吉田さんは見事にその役目を果たしてくれました。更にその後、藤井市長との懇談、また新聞社の記者の方々のインタビューにも、世界子ども財団のことも含めてしっかりと話をしてくれた吉田さんの姿が印象的でした。当日の様子は、北日本新聞、北陸中日新聞、富山新聞の3紙で紹介されました。

年度末のご多忙中、藤井市長は長く時間をとってください、星椋グループやFGCの活動についてもご紹介することができました。感謝状とともに、「心のこもったご寄付を、富山市として地震の被害にあわれた方々に届くように使わせていただく」とのお言葉をいただきました。ご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。

今年1月1日に発生した最大震度7の能登半島地震に際し、世界子ども財団を窓口として星椋グループ各法人、各事業部・所のご協力をいただいて緊急募金活動を実施しました。今回の募金活動には、全国の校舎や園でもお知らせの展開や募金箱設置をしていただき、生徒、児童、学生、保護者、教職員、また星椋グループに関わる多くの皆様から、温かいご支援を寄せていただきました。

3月27日、富山市の藤井裕久市長を訪問し、集まった募金のうち、58万9,887円を、富山市に贈呈いたしました。富山市は星椋国際高等学校富山学習センター、中央児童館、学童保育など星椋グループとのかかわりも深く、また今回の地震では市内でも多くの被害が出ており、富山市としても支援を募られていたことから、ご寄付をすることとしました。



2024年度 個人会員・法人会員を募集しています

1月より世界子ども財団の新年度がスタートしました。昨年度は441名もの個人会員、90社/団体の法人会員・協力企業のみなさまに支えられ、活動を行ってまいりました。

今年度におきましても私たちと一緒に世界の子どもたちに手を差し伸べる「仲間」を募っております。子どもたちの未来を創る活動に、ぜひご参加ください。

●賛助会員

個人会員 年会費 6,000円 / 一口

法人会員 年会費 120,000円 / 一口

●ご寄付

金額を問わず、随時受け付けております。

●寄付型自動販売機設置のお願い

現在、世界子ども財団では各飲料メーカーと提携し、「寄付型自動販売機」を積極的に展開しています。購入頂いた飲み物の売り上げの一部が当財団に寄付される仕組みとなっており、子どもたちの未来へと繋がっています。

自動販売機の設置費用や管理運営等はございません。少しでも興味のある方、設置しても良いという方、是非ともご連絡をお待ちしております。

詳しくは、世界子ども財団のホームページ、またはお気軽に事務局までお問い合わせ下さい。



2024年7月発行

公益財団法人
世界子ども財団

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷1805-2（星椋グループ内）
TEL. 0463-74-5359 FAX. 0463-74-5374 E-mail: fgc@fgc.or.jp
ホームページ: <http://www.fgc.or.jp> Facebook: 「世界子ども財団」で検索！
制作: 岡村直実 (JCユニット)

